

研究主題

心豊かな人を育む、道徳教育の推進

～インクルーシブ教育の視点に立って～

あいさつ

校長 沼尻慎一

平成30・令和元年度の2年間にわたり、熊谷市教育委員会から「心豊かな人づくり」の研究委嘱を受け、「熊谷の子どもたちは、これができます!『4つの実践』と『3減運動』」を土台に、本校の生徒像である「志を高く、夢を大きく、日々努力する生徒」を目指し、教育活動全体を通じ心豊かに生きる生徒の育成に取り組んできました。特に、学力向上に向けて「互いのよさや可能性を認め合える人間関係づくり」、「互いが尊重される学校・学級づくり」、「一人一人が大切にされ、良さや可能性を引き出す授業づくり」などに力を入れてまいりました。

本日はここに研究の一端を発表させていただきます。多くの皆様から御指導をいただき、今後さらに研究を深め、心を豊かに、よりよく生きようとする生徒を育成する所存です。

結びに、本校の研究を推進するにあたり、御指導をいただきました熊谷市教育委員会の先生方に深く感謝申し上げます。

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

本校では、4年前からインクルーシブ教育の視点に立って生徒一人一人に合った支援のしかたを工夫改善してきた。令和元年度の熊谷市教育委員会委嘱【心豊かな人づくり】を受けて、道徳教育を全教育活動に横断的に反映させながら取組を進めていく。

本校の生徒達は、生徒会を中心にあいさつ運動、生徒会歌「若人よ」の斉唱や「なしの実」の活動（名札、リボン、ネクタイチェック）など多くの活動に生徒が中心となって取り組んでいる。一方で、自分の意見の主張、他の生徒の意見への共感、自他共に大切にして生活をしていくことに課題がある。道徳科を中心に、全教職員で、全教育活動で工夫、実践していこうと考え、本研究主題を設定した。

2 研究仮説

仮説1 道徳の授業の中で、自分のこととして考える、他の人と共に考え、議論する授業を展開し、生徒を認め、励ます評価をすることで、心豊かな生徒を育てることができるであろう。

仮説2 一人一人を大切にしたいインクルーシブな環境を整えて、道徳の「見える化」を全教育活動で継続的に行っていけば、心豊かな生徒を育てることができるであろう。

3 仮説への手立て

手立て1 ・玉井中 TME22 を活用しながら教員間での PDCA サイクルを実践（教科書）
・生徒を認め、励ます評価のための道徳の「見える化」シートの実践（気づき）

手立て2 ・授業の流れの明確化（漆塗） ・タイマー、ホワイトボードの活用（共有）
・ICT やハートメーターの活用（タイミング） ・道徳コーナーの設置（仕込）

4 研究組織



5 研究の構想（グランドデザイン）

学校教育目標 志高く 夢を大きく 日々努力する生徒を育てる
 ☆くまがやラグビーオリパラプロジェクトを推進する ☆自ら動く！

研究主題
 心豊かな人を育む、道徳教育の推進
 ～インクルーシブ教育の視点に立って～

授業研究部

- 全教育活動での道徳教育の取組
 - ・TME22を活用し、PDCAサイクルを実践
 - ・インクルーシブ教育の視点を取り入れた授業
 - ・全校一斉道徳
 - ・道徳の「見える化」シートの実践
 - ・ハートメーター、視聴覚機器の活用工夫
 - ・校長による全校道徳の取組
 - ・深谷はばたきインクルだよりを使用している研修（朝の職集）

環境整備部

- 道徳の見える化
 - ・道徳コーナーの設置（各学年）
 - ・道徳ファイルの作成
- インクルーシブ教育のための環境整備
 - ・ホワイトボードの活用
 - ・タイマーの設置
 - ・いじめ撲滅宣言の掲示
 - ・ハートメーターの作成
- 小中連携
 - ・小中合同人権教育研修会の開催
 - ・小中合同一斉下校

調査研究部

- 研究課題の具体化
 - ・先生方へ「心豊かな生徒とは」アンケートの実施
 - ・アンケート結果からのアンケート項目の精選
 - ・先生方へ研究に取り組んだ感想の集約とアンケートの実施
- 生徒の変容の見える化
 - ・アンケート結果（3回）の変容の分析
 - ・生徒へのインタビュー、情報収集

自ら学ぶ生徒	思いやりのある生徒	心身ともに健康な生徒
① 「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」（総合学習（若木タイム））を推進する ・郷土愛とおもてなしの心をはぐくむ ・教科補充学習（英語、国語、数学、体育） ② 「ラウンドシステムの考え方（かまう）」を取り入れ言語活動を重視した授業を実践する ・ラウンドシステムによる英語授業（全学年） ・「授業の型」（ユニバーサルデザインの視点） ③ 分かりやすく学べる「学びの環境」を整備する 『玉井中スタンダード』の実践 ・板書の構造化（教室の学習環境整備） ・学習内容の明確化 ・効果的なグループ学習、ICTの活用 ④ 「くまなびスクール」を（25回）実施する	① 生徒会歌「若人よ」（一人じゃない!）の精神をすべての教育活動の場で徹底する （「熊谷市いじめ撲滅宣言」⇒道徳・学活） ② 道徳の時間の「見える化」を行う ・学習活動の見える化（資料提示の工夫） ※実生活における道徳の見える化を図る ③ 心の絆をたかめる学校行事に取り組む 「体育祭」「若木祭」「合唱コンクール」 ④ 小中連携した教育活動の実践をする （3校合同あいさつ運動、小学校出前授業） ⑤ 特別支援教育の視点に立つ「授業研究会」を実施し、共に学び合う教育活動を実践する （インクルーシブ教育の推進）	① 玉井中「4つの実践」と「3減運動」を実践する。◇HQCシートを活用する （TV、PCの時間：2時間以内）（71%⇒75%） ② 新体力テストを、年間2回実施し伸びを図る ◇県平均値以上（62.5%⇒80%） ※「握力」「50m走」を重視する ③ 主体性を発揮させる校外学習を実施する 「名栗体験学習」「大滝林間学校」「修学旅行」 ④ 「小中合同地域防災訓練」を実施する （中学生が地域で共に活動する） ⑤ 互いに磨きあい成長できる部活動を実施する Teaching から coaching へ ※主体的な活動を促す

熊谷の子どもたちは、これができます！

平成28年4月改訂版「熊谷市総合計画（はら）」第5巻 第2章 第4節 教育・文化・スポーツ

熊谷の子どもたちは、これができます！

4つの実践
 アクセル
 プレーキ

生きる力
 意欲・関心・好奇心
 学び・探究
 やる気
 思いやり
 健康

3減運動
 減 テレビの時間を減らします。
 減 ゲームの時間を減らします。
 減 スマートフォン・携帯電話・パソコンに触れる時間を減らします。

約束を！
 約束の時間を減らします。
 予定・授業の時間を減らします。

大人が手本となって

『4つの実践』（アクセル）

- 朝ごはんをしっかりと食べる。
- 呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする。
- 「ありがとう」「ごめんなさい」と言う。
- 友だちをたくさんつくる。

『3減運動』（プレーキ）

- テレビの時間を減らします。
- ゲームの時間を減らします。
- スマートフォン・携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします。